＃04_あんたとのキスは…そんな嫌いじゃないから

「んちゅぅ、じゅぶぼっ…んじゅ、んぐっ…んぶっ…んじゅ、れるれる、れろじゅぶっ…」
「んじゅ、じゅりゅちゅっ、んぐっ、ぐっ…んふぅ、んじゅ、じゅぶ、じゅぶ、じゅぼ…」
「んじゅりゅりゅ…んっ…じゅぶ、じゅぼ…じゅぶ…」

「ぷはぁ…はぁ、ふぅ…んっ、起きたんだ。おはよ」

「何してるのって…フェラだけど？」

「あんた、全然起きないし…下の方は、なんか大きくなってるし？　だから、してあげてたんだけど」
「やっぱり性欲溜まってたんじゃない？　口では色々言ってるけど、身体は正直じゃん？」

「はいはい、言い訳とかいいからさ…暴れないでよ？」
「しっかり抜いてあげるんだから…」

「んふぅ、ふぅ…んちゅっ、ちゅぅ…れるれる、れるちゅぅ…♡　ちゅぶっ…ちゅうぅ…」
「ふぅ、んんぶっ…んじゅ、りゅぅぅ…れるれる、れろちゅぅ…んちゅぅ…」
「んんっ、んぶっ、んふぅ、じゅぶっ、じゅぶぅ、じゅりゅ、じゅりゅ…れろじゅぅ」
「んふっ♡　んぐっ、じゅぶ、じゅぼ、じゅぶ、じゅぼ、ぐぽ、ぐぽ、じゅぶ、じゅぶぅ…」

「んんっ…♡　んるれるれる、れるれるれるれろ、れるれる…」
「んふっ、じゅぶ、じゅぶ、じゅりゅ、じゅぶ、じゅぼ、じゅぶ、じゅぷ、じゅぷ」
「じゅりゅ、れる、じゅぶ、じゅぼ、じゅぶ、じゅぶ、んじゅ、じゅぅぅぅぅ♡」

「ぷはぁ…はぁ、はぁ…はぁ、はふぅ…」
「んっ…感じてるね～。嬉しい？　ん、顔見ればそれくらいわかるし」
「でも、あんたのってでっかいから、口、疲れるんだよね…」

「ふぅ、ふぅ…んじゅじゅ、じゅぶぶぅ～…」
「んふ、れるれる、れろじゅぶ、じゅぼ、じゅぼ、じゅぼ、じゅぶっ…」
「んじゅじゅぶっ…んんっ、んっふ、んっふ、じゅぶ、じゅっぼ、じゅぶっ…じゅぶじゅりゅ～」
「じゅぶ、じゅぶ…じゅぶ、じゅっぼ…ん？　じゅぞぞ～…じゅぶっ…ぷはぁ…」

「何？　限界、近いの？　だったらさっさと出してほしいんだけど」
「何？　まさか出したくないとか？　また愛とかなんとかそういうお説教？」

「はぁ、はぁ…ふぅ…」
「そういうお節介、いい加減やめてほしいんだけど」
「いいじゃん、あんたは私で気持ちよくなれるんだし…私もあんたに迷惑かけないんだし」

「な…んんぅっ！　んちゅぅ、ちゅぅ…ちゅっ！　ちゅうっ！　ちゅううっ！」
「な、何すんの…！　んちゅっ、ちゅぅ…！　んちゅぅぅ…はぁぅ♡　んちゅぅ、むちゅぅ♡」
「今は…んちゅっ、私が…ちゅぅ！　あんたに…んちゅぅ、はぁ、はぁ…ちゅぅぅ！
　してた…んちゅっ、はぁ、ふぅ♡　のにぃ…♡」

「はぁ、はぁ、はぁ♡　急にキスとか…結構遠慮、なくなってきたじゃん…」
「ん、別に良いけど…さぁ…良いよ。あんたの好きなようにすれば」
「ん…フェラよりは、疲れないし…」

「んっ…！　ちゅぅ…♡　はぁ、ふぅ、んちゅぅ、ちゅぅ、ちゅぅぅ…♡」
「れるれる…れるむちゅぅ♡　はふぅ、れるれる、れろちゅぅ…ん、んん～♡」
「れるれる、はぁ、ふぅ…れろれろ、れるむちゅぅ♡　れる、れる…れろれりゅ～♡」
「ぷはぁ、はぁ、はぁ…はぁ…んっ…♡」

「まだ…まだ、やめないでよっ…♡」
「んちゅぅ♡　はぁ♡　んちゅぅ、れるれる、れろちゅぅ♡　んんっ♡　れろむちゅぅ♡」
「れるれる、れろむちゅっ…んちゅぅ、んっ♡　んっ♡　れるれる、れるぷちゅ♡」
「んんっ♡　れるれるれる、はぁ、れるちゅぅ♡　んっ！　れるれるむちゅぅぅぅ♡」
「ぷはぁ、はぁ、はぁ、ふぅ…んんっ、はふぅ…♡」

「何…別にいいでしょ…はぁ、はぁ…」
「その…気持ちいいんだもん…♡　あんたとの…キス」
「んっ…こんな風にキスされる事って…なかったし…んっ♡」
「はぁ、はぁ…あんたとのキスは…そんな嫌いじゃないから」

「んっ…♡　そう、嫌いじゃない…♡」

「んっ…ちゅぅ♡」

「はぁ、はぁ…♡　ねぇ…その…」
「今回は、前みたいに、キスだけで終わりじゃない…よね？」
「んっ…あんたのも、こんなになってるわけだし…」

「はぁ、ふぅ…セックス…しよ？」
「んっ…泊めてもらってる分、身体で払おうとか…そういうのじゃなくて…」
「私が…あんたと…セックス…したいって、思ったの…♡」

「はぁ、ふぅ…ん、あんたなら…きっと…」

「だからお願い…して？　私に…その…愛を、教えて…？」

「あっ…んんっ！」
「はぁ、はぁ、ふぅ…♡」
「んっ…んっ！　んちゅっ、ちゅっ♡　はぁ、ふぅ…んちゅぅ、れるれる、れろちゅぅ…」
「んっ、んんっ！　んちゅぅ、ちゅぅ…れるれる、れろちゅぅ…♡　んちゅぅ♡」

「ふぅ、ふぅ…んっ、ほら、来てよ♡」
「んっ…あんたから挿れて…動いて…♡」

「あ、んっ…！」
「ふぅ、ふぅ…大丈夫、私は…大丈夫…だから…ね、挿れて？」

「んんっ！　んっ、んぅぅぅぅっ…！」
「んっ、はぁ、はぁ…はぁ、んぅ…入った、入ってるぅ…」

「ふぅ、ふぅ…んっ、何、見てんの…それじゃあ、一生経っても、終わらないでしょ」
「挿れたんだから、動いてよ…」
「ん、愛あるセックスってのを、教えて…よ…」

「教えて…くれるんでしょ？」

「んっ…あっ、んぅ…んっ、んふっ、んっ、んんぅ、んっ…あぅっ…んっ！　んっ！」
「はぁ、ふぅ、んっ、はぁ、ふぅ、ふぅ…んんっ！　んぅ、んっ、んぅ、あぅ…ん、はぁ、ふぅ…」
「はぁ、はぁ…んっ…大丈夫…んんっ！　大丈夫…だよ…はぁ、ふぅ…」

「ちゃんと、感じて…るしっ…んっ、んっ！　はぁ、はぁ…」
「前は、濡れてなかったけど…今日は、んんっ、くぅ、ふぅ…濡れてるからっ…」
「痛くも…ないしさぁ♡　はぁ、はぁ…んんっ♡　はぅ、んっ…♡」
「ん…いい、感じ…だと思う…んっ、はぁ、はっ、はぁ♡　ふぅ…」

「んっ！　あっ！」
「ふぅ、んっ！　ごめん…声、でちゃった…はぁ、はぁ、ふぅ、んっ！」
「ん、いいトコ…当たったから…んっ！　んんっ…出ちゃう、でしょ…ふぅ、んんっ！」

「んぅっ！　あぁぅっ！　んんっ！」
「ってぇ…！　感じさせられたからってっ…調子、のんなっ…！　んんっ！」
「んぅっ、はぁ、そこぉ…気持ち…いいん、だからぁ♡」

「んんっ！　あっ！　あぁ！　んふっ！　んっ！　あんっ！　はぁ、はぁ♡　んぁっ！　んぅっ！」
「んんっ…はぁ、はぁ、んぅ、んぅ…ねぇ、あんた…はさぁ…」
「それで、いいのっ…？　私が、感じるトコだけ、攻めて…んぅぅっ！」

「もっと、自分が気持ち良くなるためにさぁ、んんぅっ！　はぁ、はぁ♡
　動いても、いいん…だよ…んぅっ！　ぁあっ！　んぁっ！　あぁ♡」
「ふぅ、んっ…んっ！　あぁっ！　あんっ！　んっ！　あぅっ！」

「んぅ♡　いいなら、いいんだけど…ねっ♡」
「自分の事も、んんっ！　はぁ、ふぅ！　ふぅ♡　んっ！　考えて、んぅあっ…はぁ♡　動いて…よ？」
「んんっ！　だって、私だけが…んんっ！　気持ち良くされたらぁ♡　はぁ、はぁ♡
　不公平…じゃん♡」

「んふぅ♡　はぁ、はぁ、ふぅ…んっ！　んんっ！」

「んんっ♡　本当…？　なら、いいんだけど…ねっ…♡」
「でもさっ…んっ！　んっ！　そういう事言ってるけど…本当はさぁ…」
「はぁ、はぁ…うぅっ！　もっと、激しく動きたいとか…んんっ！
　思ってるんじゃ…ふぅ、無いのっ？」

「それくらい、わかるしっ！」
「遠慮なんてしないで、動けば…いいじゃんっ、はぁ、はぁ、ふぅぅ♡」

「私も…あんたが、気持ちよさそうにしてたら…んんっ！
　もっと、気持ちよくなれる…気がするんだよね」
「だから、んんっ！　はぁ、ふぅ♡　あんたの本気ぃ…見せて…よっ♡」

「んんぅぅ♡　はぁ、はぁ♡　はぅっ！　んぁっ！　んんっ！　んっ！　んふぅっ♡」
「はぁ♡　あっ！　あっ♡　あっ♡　んぅっ♡　ふぅ、ふぅ…んふふ…♡」

「やっぱり、我慢…してたんじゃん♡　んんっ！　んっ！　はぁ、ふぁぁっ！」
「あんたのもっ…んんんっ♡　大きくなったしぃ…はぁ、はぁ…ふぅ、んんっ♡」
「んぐっ♡　んんっ！　さっきよりも、いいっトコ、にぃ…はぁ、ふぅ、んっ！　んんっ！
　ドチュ、ドチュって、当たってぇ♡」

「私も…私も…んんっ！　んんんんっ！　はぁ、あぁっ！　んぁ！　んんっ！」
「はぁ♡　はぁ、はぁ、んんっ…これ、来そう…気持ちいいの、来そう…かもっ♡」

「はふっ、んんっ！　あんたも…そろそろ…なんじゃ、ない？　んんっ、んっ！」
「限界って、顔してるし…イキそうなんでしょ？　はあ、あぁっ、んっ！　んんぅっ！」

「なら、さ…はぁ、あっ！　一緒に、一緒にイキたい…かも♡」
「知りたいのっ…どうなるか、んんっ！　はぁ、はぁ♡　知りたいのっ…」

「だから、んっ！　出して…出してぇ…っ！」
「一緒にっ…一緒に…イこ…？」

「んふぅ、んちゅっ、ちゅぅう、れる、れる…♡　れろちゅぅ♡　はぅ♡　んちゅっ♡」
「れる、れろ、れるぶちゅぅぅ…んっふっ♡　ふぁっ、れるれる…んっ、イク…♡」
「んんっ、れるれる、イク、れるちゅっ、イク！　れるれろっ…イク、イク…」

「イクイクイクイクイク…んっ、イッくぅぅ～～～っ！」

「んぁぁっ！　あぁっ！　んんんんんぅ～～～っ！」

「はぁ、はぁ、あぁ、つぅい…♡　んんっ、ふぅ、ふぅ…はぁ、ふぅ…」

「んんっ、んちゅ♡　ちゅぅ♡　はふぅ♡　ちゅぅ、ちゅぅ…むちゅぅ♡」
「んぅぅ♡　ぷはぁ…♡　はぁ、はぁ…はぁ、んんぅ…♡」

「はぁ、はぁ…んっ、中…いっぱい、出す、じゃん…」
「はぁ、んっ…別に、これくらい…気にしないで、いいし…」

「私が、求めたみたいな…もんだし」

「ふぅ、んっ…あんたが言ってた…愛って、やつ…」
「んっ…少しだけ、わかった…かも」

「ほんの、少しだけ…だけどね…」

「ん、まぁ…これからも、教えてよ。それだけ」